

スーパーマーケット販売統計調査資料

7月実績 速報版(パネル 270)

6月実績 確報版(パネル 270)

2020年上半期(1~6月)実績確報版(パネル 270)

(2020年8月21日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアペーカリー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2020年8月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年7月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	94,978,879	100.0%	106.8%	105.6%
食品合計	86,186,550	90.7%	107.4%	105.9%
生鮮3部門合計	33,483,975	35.3%	112.2%	110.7%
青果	13,458,421	14.2%	113.5%	112.1%
水産	8,861,478	9.3%	111.4%	110.0%
畜産	11,164,075	11.8%	111.1%	109.5%
惣菜	9,487,364	10.0%	101.1%	100.2%
日配	18,572,286	19.6%	105.9%	104.2%
一般食品	24,642,926	25.9%	104.8%	103.6%
非食品	6,477,581	6.8%	105.9%	105.7%
その他	2,314,796	2.4%	96.1%	95.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,096,238	43	107.0%	105.9%
関東地方	35,737,566	73	107.9%	106.8%
中部地方	11,684,111	53	108.1%	105.3%
近畿地方	19,843,384	44	105.0%	104.4%
中国・四国地方	9,536,503	34	107.6%	105.7%
九州・沖縄地方	5,081,077	23	101.8%	101.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	650,224	46	103.0%	103.8%
4~10店舗	4,537,340	79	104.1%	103.9%
11~25店舗	10,451,834	58	106.6%	104.7%
26~50店舗	16,331,890	43	105.9%	105.3%
51店舗以上	63,007,591	44	107.3%	105.9%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	93,144,013
総店舗数 (店舗)	8,022	店舗平均月商 (万円)	11,840
総売場面積 (㎡)	13,356,658	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.1

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年8月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年6月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	93,896,517	100.0%	106.0%	104.6%
食品合計	84,698,437	90.2%	106.1%	104.7%
生鮮3部門合計	32,613,058	34.7%	109.0%	107.5%
青果	13,358,061	14.2%	109.8%	108.4%
水産	8,140,283	8.7%	108.4%	106.8%
畜産	11,114,714	11.8%	108.5%	106.9%
惣菜	9,031,333	9.6%	100.4%	99.3%
日配	18,557,920	19.8%	106.1%	104.5%
一般食品	24,496,126	26.1%	104.6%	103.2%
非食品	6,980,074	7.4%	109.1%	107.5%
その他	2,218,056	2.4%	97.2%	97.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,935,100	43	106.8%	104.9%
関東地方	34,943,651	73	106.4%	105.2%
中部地方	11,685,120	53	107.2%	104.8%
近畿地方	19,964,918	44	104.4%	103.5%
中国・四国地方	9,390,197	34	106.2%	105.4%
九州・沖縄地方	4,977,531	23	104.9%	102.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	683,083	47	99.9%	104.0%
4~10店舗	4,459,006	78	104.1%	104.9%
11~25店舗	10,401,869	58	106.8%	105.2%
26~50店舗	16,228,771	43	105.7%	104.7%
51店舗以上	62,123,789	44	106.1%	104.5%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	92,044,452	
総店舗数 (店舗)	8,016	店舗平均月商 (万円)	11,714	
総売場面積 (㎡)	13,344,836	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年8月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年上半期（1～6月）実績確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同期比 （全店）	前年同期比 （既存店）
総売上高	563,228,263	100.0%	107.6%	106.1%
食品合計	508,939,533	90.4%	108.3%	106.8%
生鮮3部門合計	195,586,047	34.7%	109.4%	107.8%
青果	78,962,604	14.0%	109.0%	107.5%
水産	48,833,403	8.7%	107.0%	105.3%
畜産	67,790,040	12.0%	111.7%	110.0%
惣菜	54,506,822	9.7%	101.0%	99.7%
日配	111,701,342	19.8%	109.5%	107.7%
一般食品	147,145,321	26.1%	109.0%	107.6%
非食品	38,294,116	6.8%	103.7%	101.4%
その他	15,994,614	2.8%	95.4%	96.0%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同期比 （全店）	前年同期比 （既存店）
北海道・東北地方	76,977,225	43	107.0%	105.3%
関東地方	211,815,338	73	109.4%	108.1%
中部地方	69,596,685	53	108.2%	106.0%
近畿地方	119,655,902	44	105.5%	104.3%
中国・四国地方	55,923,466	34	107.4%	106.3%
九州・沖縄地方	29,259,647	23	103.4%	101.3%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同期比 （全店）	前年同期比 （既存店）
1～3店舗	3,858,891	45	103.0%	104.9%
4～10店舗	26,702,304	79	104.6%	105.6%
11～25店舗	62,958,288	59	108.1%	106.4%
26～50店舗	96,947,167	43	107.3%	105.9%
51店舗以上	372,761,612	44	107.8%	106.2%

※保有店舗数カテゴリーは2020年1月時点での保有店舗数による分類

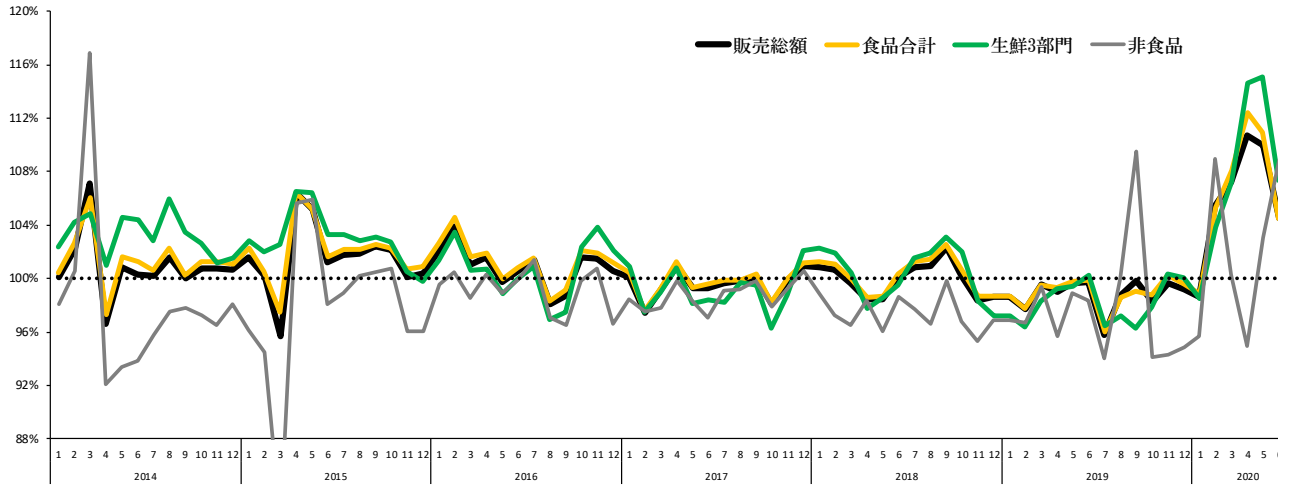
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	549,156,956
----------	-----	-------------	-------------

※売上高は税抜金額

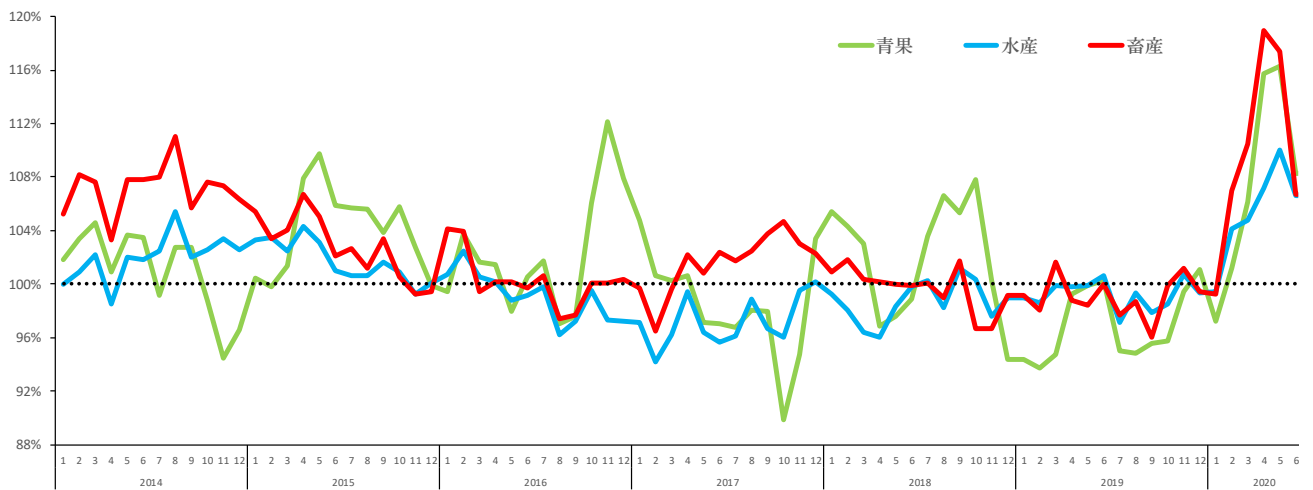
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

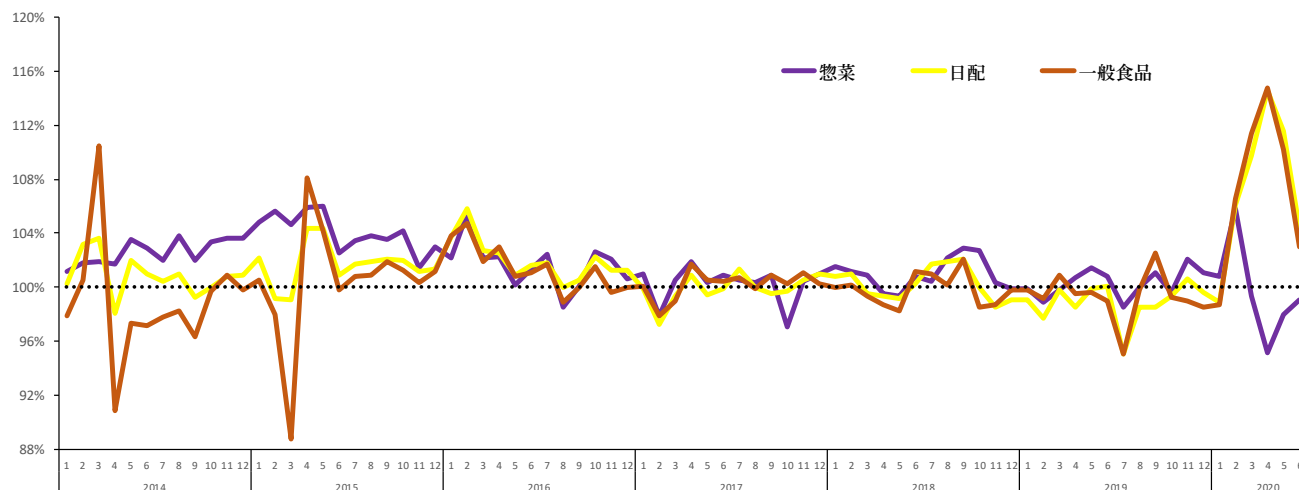
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2020年7月実績は速報値

2020年7月エリア別気候状況

気温の特徴：気温は、西日本でかなり低く、東日本で低かった

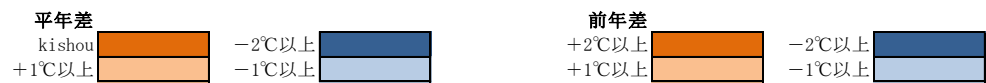
上旬：北日本と沖縄・奄美で高かった。一方、西日本で低かった。

中旬：西日本でかなり低く、東日本で低かった。一方、沖縄・奄美で高かった。

下旬：北・東・西日本で低かった。一方、沖縄・奄美で高かった。

2019年7月との比較：上旬は北日本を中心にやや高く、下旬は全国的にかなり低くなった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2020年7月			2019年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	1.4	0.4	-0.5	0.0	0.7	2.3	1.4	-0.3	-2.8
太平洋側	1.7	-0.4	-0.8	-0.4	0.1	2.4	2.1	-0.5	-3.2
東日本 日本海側	-0.2	-1.1	-1.3	0.4	-0.6	1.8	-0.6	-0.5	-3.1
太平洋側	0.4	-1.5	-1.0	-1.0	-1.7	1.0	1.4	0.2	-2.0
西日本 日本海側	-1.2	-1.7	-1.1	-0.9	-1.5	0.9	-0.3	-0.2	-2.0
太平洋側	-1.0	-1.7	-0.6	-1.0	-1.4	0.5	0.0	-0.3	-1.1
沖縄・奄美	0.5	0.4	0.6	-0.2	0.1	0.4	0.7	0.3	0.2



日照時間の特徴：北日本太平洋側と東・西日本で日照時間はかなり少なかった

上旬：東日本と西日本太平洋側でかなり少なく、西日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。

中旬：北日本日本海側でかなり多かった。一方、北・東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では少なかった。

下旬：東日本と西日本日本海側でかなり少なく、北・西日本太平洋側で少なかった。

2019年7月との比較：上旬は東日本日本海側でかなり少なく、下旬は東・西日本で少なくなった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年7月			2019年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	97	142	89	135	101	78	-38	41	11
太平洋側	82	83	60	85	61	101	-3	22	-41
東日本 日本海側	25	73	29	105	54	96	-80	19	-67
太平洋側	36	59	32	36	34	91	0	25	-59
西日本 日本海側	49	61	45	76	65	91	-27	-4	-46
太平洋側	41	61	65	54	50	92	-13	11	-27
沖縄・奄美	72	88	104	51	74	118	21	14	-14



降水量の特徴：「令和2年7月豪雨」が発生

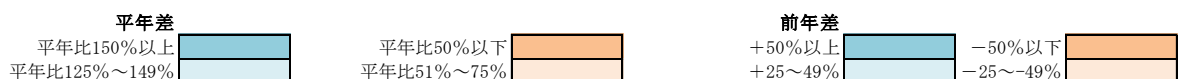
上旬：北日本日本海側と東・西日本でかなり多く、北日本太平洋側と沖縄・奄美が多かった。

中旬：東日本と沖縄・奄美が多かった。

下旬：東・西日本でかなり多く、北日本で多かった。

2019年7月との比較：上旬と下旬は全国的にかなり多い降水量となった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年7月			2019年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	171	64	175	37	47	89	134	17	86
太平洋側	122	85	166	52	86	75	70	-1	91
東日本 日本海側	273	118	278	27	51	88	246	67	190
太平洋側	299	173	263	135	170	135	164	3	128
西日本 日本海側	281	118	288	68	167	110	213	-49	178
太平洋側	370	116	226	191	239	103	179	-123	123
沖縄・奄美	177	248	81	314	304	22	-137	-56	59



気象庁報道資料「7月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年 (1981年~2010年) の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2020年8月調査結果（7月実績）
（2020年8月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

8月調査（7月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は横ばい、見通し判断は小幅に改善

7月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から-0.3の46.8、見通し判断は前月から+2.1の38.2となり、現状判断は前月水準で推移、見通し判断は小幅に改善した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に二桁のプラスを維持した。買物頻度の抑制により来客数DIは低下したが、堅調な家庭内食品需要による買い上げ点数の増加や青果相場の高騰を追い風に客単価DIは高水準を維持した。また特売の自粛により販売価格DIが二桁プラスを維持したことも支えとなった。

カテゴリー動向調査では、中食需要の減少に加え、行楽や行事の中止、バラ売り販売の自粛の影響が残る惣菜カテゴリーDIのみがマイナス、他のカテゴリーDIは大幅なプラスとなった。前年より気温が低くなった地域を中心に夏物商材は伸び悩んだが、調理用の食品が好調となった。また、マスクや衛生用品、家庭用品が好調な非食品DIも引き続き高水準を維持した。

景況感調査は、水準に大きな変化はみられないが、見通し判断を中心に前月から小幅な改善をみせた。一方で引き続き店舗周辺地域景気判断DIの低迷は継続している。（長期傾向についてはp12参照）

緊急事態宣言解除後も引き続き食品需要は高い状況が続いている。感染拡大の収束時期は見通せない状況が続くなかで、イベントや旅行などに代わる楽しさの提供をスーパーマーケットが担うことも期待される。長期化を見据えて家庭内食品消費需要の定着を目指す取り組みを期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：46.8 (+0.7)
前月：46.1

消費者購買意欲DI
当月：50.3 (-1.4)
前月：51.7

周辺地域 競合状況DI
当月：46.3 (+1.5)
前月：44.8

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.3 (-0.1)
前月：41.4

見通し判断

景気判断DI
当月：38.2 (+2.1)
前月：36.1

消費者購買意欲DI
当月：43.1 (+3.0)
前月：40.1

周辺地域 競合状況DI
当月：43.4 (+1.4)
前月：42.0

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：37.6 (+1.2)
前月：36.4

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：15.0 (+0.5)
前月：14.5

客単価DI
当月：26.0 (-0.4)
前月：26.4

来客数DI
当月：-16.3 (-3.2)
前月：-13.1

収益DI
当月：17.3 (-0.2)
前月：17.5

販売価格DI
当月：11.5 (+0.5)
前月：11.0

生鮮品仕入原価DI
当月：17.2 (+8.5)
前月：8.7

食品仕入原価DI
当月：4.3 (-1.7)
前月：6.0

カテゴリー動向

青果DI
当月：26.9 (+4.3)
前月：22.6

水産DI
当月：24.1 (+6.4)
前月：17.7

畜産DI
当月：23.8 (+5.9)
前月：17.9

惣菜DI
当月：-4.1 (+1.8)
前月：-5.9

日配DI
当月：11.9 (-2.0)
前月：13.9

一般食品DI
当月：9.5 (-3.1)
前月：12.6

非食品DI
当月：17.1 (-4.4)
前月：21.5

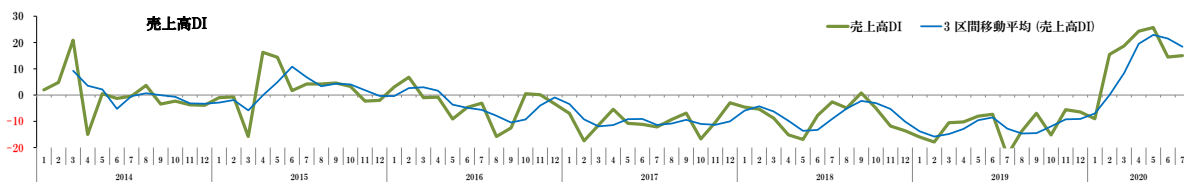
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月水準を維持

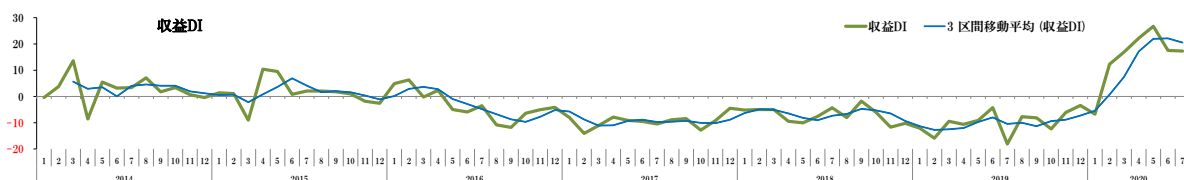
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	6.6	12.6	16.4	45.4	19.1	14.5
売上高 (当月)	7.7	7.7	18.7	48.4	17.4	15.0



2. 収益DI

前月水準を維持

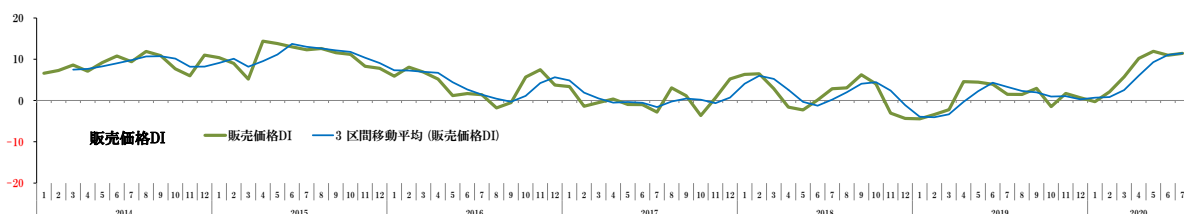
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	5.5	12.2	12.7	45.9	23.8	17.5
収益 (当月)	3.9	11.8	17.6	44.4	22.2	17.3



3. 販売価格DI

前月水準で推移

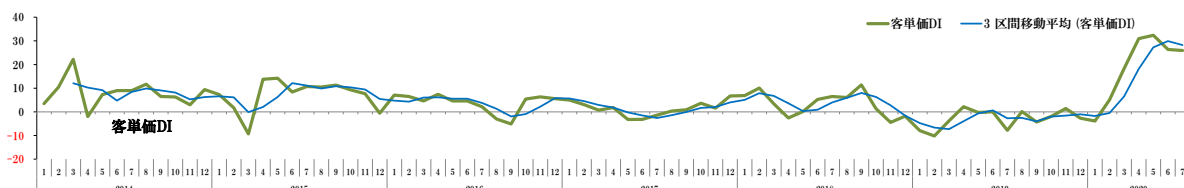
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.5	2.7	54.4	36.8	5.5	11.0
販売価格 (当月)	0.6	2.6	51.0	41.9	3.9	11.5



4. 客単価DI

前月からやや上昇し、引き続き高水準で推移

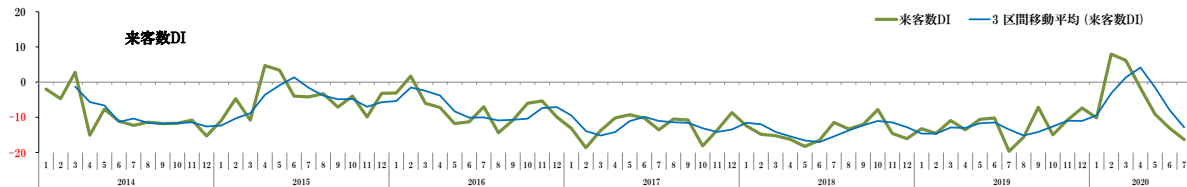
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	3.8	13.2	52.2	29.7	26.4
客単価 (当月)	0.6	4.5	13.5	52.9	28.4	26.0



5. 来客数 DI

当月小幅に下落し二桁マイナス

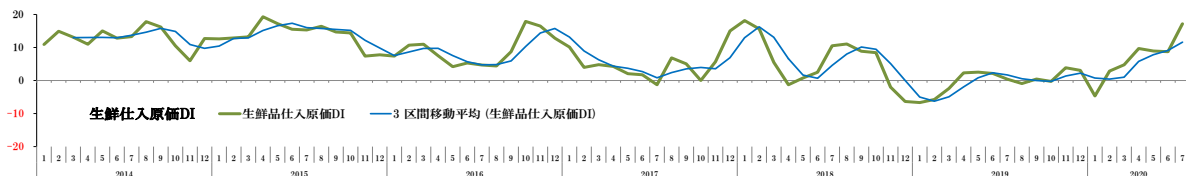
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	16.9	40.4	24.6	14.2	3.8	-13.1
来客数 (当月)	16.3	47.1	22.9	13.1	0.7	-16.3



6. 生鮮仕入原価 DI

当月プラス幅を拡大し二桁プラス圏に上昇

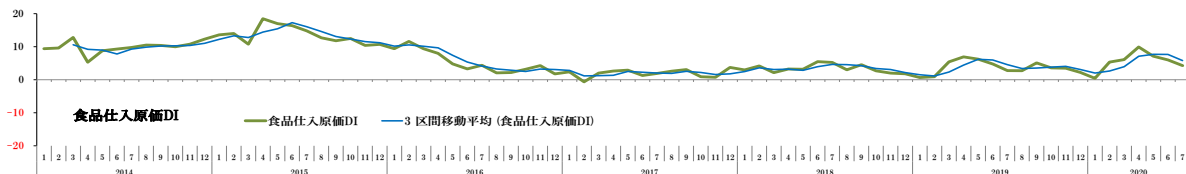
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	6.2	55.1	32.0	5.6	8.7
生鮮仕入原価 (当月)	1.3	3.3	33.3	49.3	12.7	17.2



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	4.5	68.7	22.9	3.4	6.0
食品仕入原価 (当月)	2.6	3.9	69.1	22.4	2.0	4.3

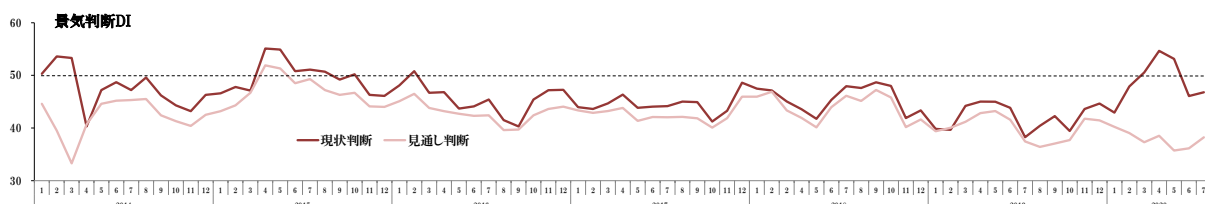


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は横ばい推移、見通し判断は小幅に改善

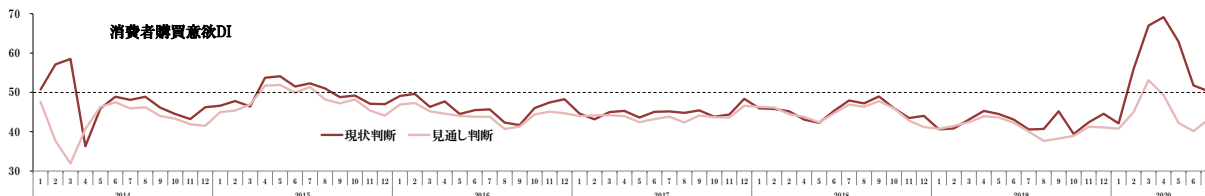
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.7	34.1	41.1	20.5	1.6	46.1
【現状】景況判断 (当月)	3.8	26.9	48.7	19.2	1.3	46.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	8.7	45.7	38.6	6.5	0.5	36.1
【見通し】景況判断 (当月)	9.7	38.1	42.6	9.0	0.6	38.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は50台を維持、見通し判断は小幅に改善

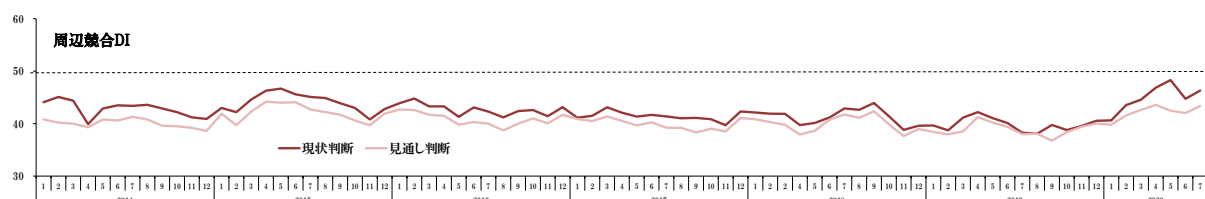
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	25.8	40.3	30.6	2.2	51.7
【現状】購買意欲 (当月)	0.6	21.2	55.1	22.4	0.6	50.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	6.5	38.9	43.2	10.3	1.1	40.1
【見通し】購買意欲 (当月)	4.5	32.3	51.0	11.0	1.3	43.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも小幅に改善

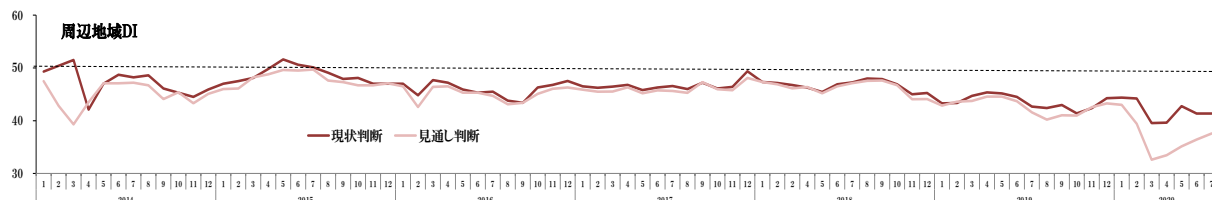
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.7	19.4	74.2	3.8	0.0	44.8
【現状】競合状況 (当月)	0.6	16.7	79.5	3.2	0.0	46.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.2	26.5	69.2	1.1	0.0	42.0
【見通し】競合状況 (当月)	3.2	21.9	72.9	1.9	0.0	43.4



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともに前月水準で推移

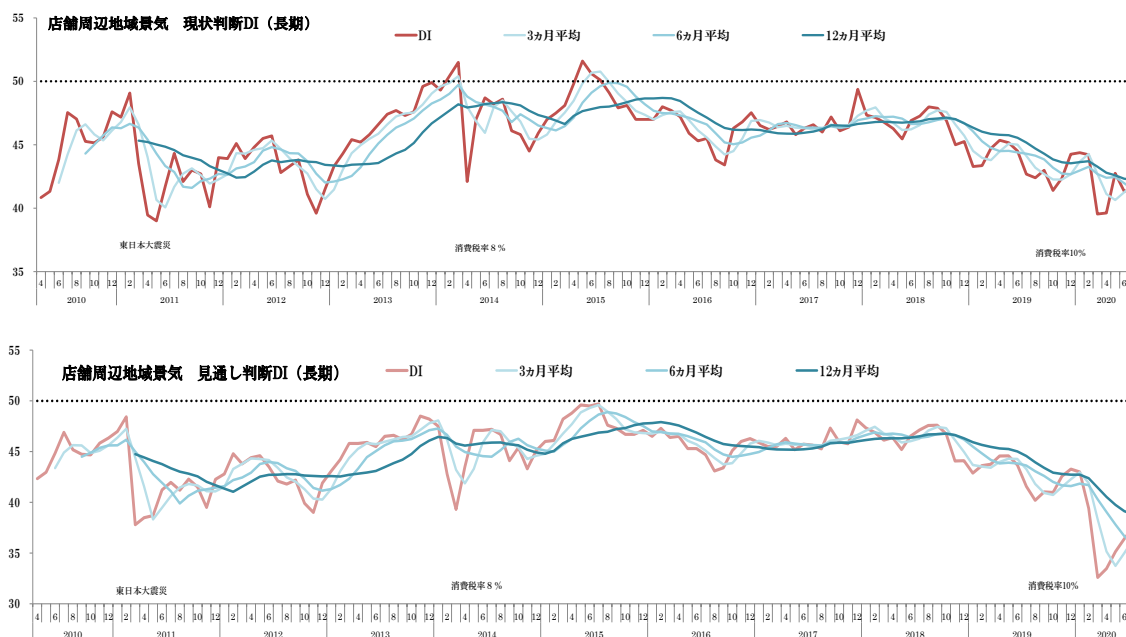
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	4.3	30.3	61.6	3.2	0.5	41.4
【現状】地域景気(当月)	3.8	32.1	59.6	3.8	0.6	41.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	7.1	41.3	50.5	1.1	0.0	36.4
【見通し】地域景気(当月)	8.4	36.8	51.6	2.6	0.6	37.6



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

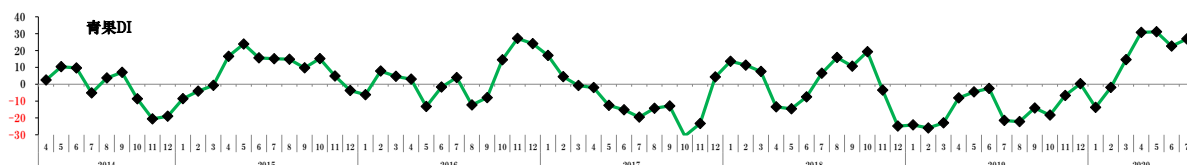
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月から新型コロナウイルスの影響により大幅な低下がみられたが、5月以降はやや持ち直しているものの、トレンドを好転させるにはいたっていない。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：26.9（かなり好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.4	5.6	16.9	45.5	28.7	22.6
青果（当月）	1.4	6.8	11.5	43.9	36.5	26.9

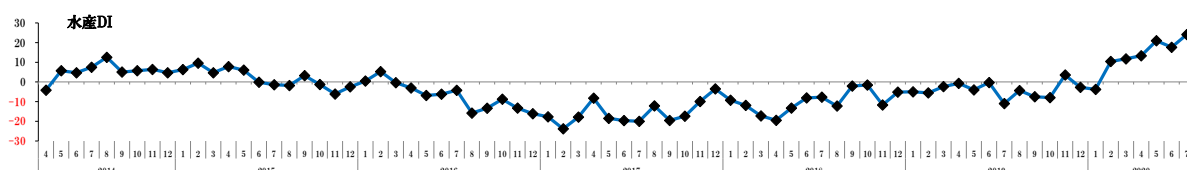


長雨の影響で全般的に野菜相場が高騰しており、特にレタスやキャベツなどが高値となっており、一品単価が上昇したことで好調となった。一方で西日本を中心に豪雨の影響で品薄や品質低下で販売に苦慮した。家庭調理用需要が継続しており、引き続きじゃがいもや玉ねぎなど土物類が好調となった。またカット野菜やサラダ類も好調となった。

果物類は、輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調となっている店舗が多いが、国産果物は高値で入荷が不安定なものが多く、好不調が分かれている。

2. 水産DI：24.1（かなり好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	5.6	6.2	21.5	45.2	21.5	17.7
水産（当月）	0.7	8.2	19.7	36.7	34.7	24.1

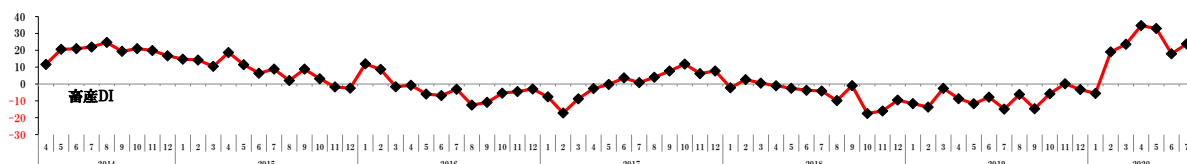


引き続き家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、相場安傾向により買上げ点数が増加しており全般的に好調となった。うなぎは相場安を追い風に土用丑の日にかけて国産、輸入共に大幅に販売数量増となった。前年不漁により不振となったイカ類は入荷が安定し回復傾向がみられた。

保存可能な冷凍商材や塩干類は引き続き好調だがやや落ち着きがみられているとのコメントもみられた。マグロやカツオ、タコなどの刺身類は相場安で価格訴求しやすく好調な店舗が多いが、気温が低めに推移した地域では伸び悩んだ店舗もみられた。

3. 畜産DI：23.8（やや好調）

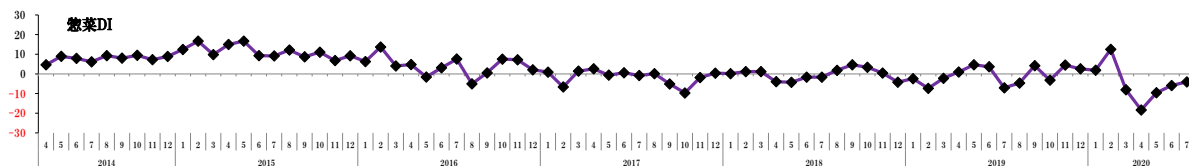
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.0	7.9	22.0	44.6	21.5	17.9
畜産（当月）	1.4	7.4	16.9	43.2	31.1	23.8



引き続き家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、外食の自粛による影響も加わり、全般的に好調となった。なかでも牛肉は国産価格が低下傾向にあり販売数量が大きく伸びており、焼肉やステーキ用の大容量商品や和牛など高単価商品の動きがよかった。国産豚肉や鶏肉は相場が上昇しており伸び悩んだ店舗もみられた。ハムソーセージなど加工肉ギフト用は不振だが、一般商品は堅調な販売動向が続いている。

4. 惣菜DI：-4.1（やや不調）

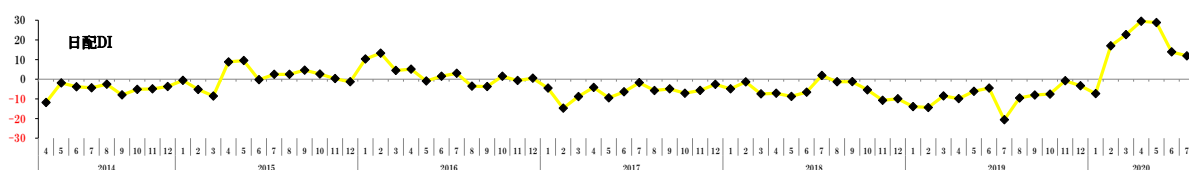
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	12.4	30.9	27.5	26.4	2.8	-5.9
惣菜（当月）	9.5	28.4	34.5	24.3	3.4	-4.1



徐々に緩和傾向にあるものの、行楽向け、イベント中止による大人数用、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下、ばら売り販売中止の影響を受け、やや不調傾向が続いている。一方で食卓用の商品や土用丑の日に関連した弁当や蒲焼は好調に推移した。引き続き家飲み機会の増加でおつまみ用の少量惣菜の動きがよい。不振が続いている寿司類は回復傾向もみられた。気温が低い地域では涼味商材の動きが悪かった。

5. 日配DI：11.9（好調）

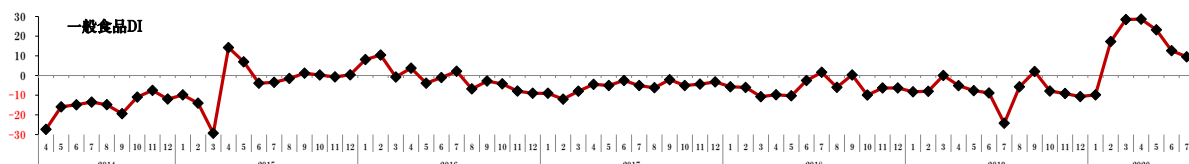
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.4	13.5	22.5	45.5	15.2	13.9
日配（当月）	0.7	16.3	30.6	39.5	12.9	11.9



先月と傾向は大きく変わらず、堅調な家庭内消費需要を背景に好調となった。保存可能な冷凍食品やチルド商品、牛乳やバター、チーズなどの乳製品をはじめ、ヨーグルトや納豆、キムチなど発酵食品の好調が継続している。野菜価格の高騰で漬物類、高単価商品の動きがよいとコメントもみられた。デザート類やデザート調理商材や家飲みのつまみとなる商品も好調となった。気温が低く推移した地域では飲料やアイス類や、麺類などの涼味系商材の動きが悪かった一方で、パン類は好調に推移した店舗もみられた。

6. 一般食品：9.5（やや好調）

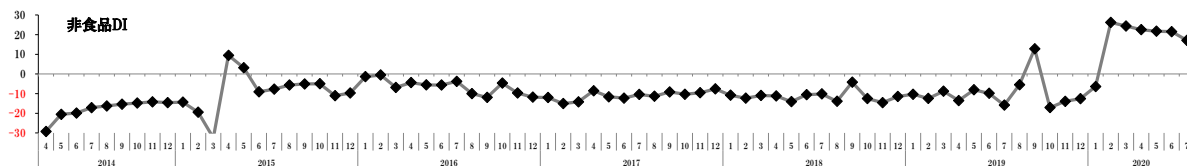
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.6	12.8	21.1	46.7	13.9	12.6
一般食品（当月）	3.3	18.0	27.3	40.0	11.3	9.5



堅調な家庭内消費需要を背景に、米や調味料、食油、乾麺類などが好調となった。ホットケーキミックスやパスタなど小麦粉製品や関連商品の好調が継続しており、一部は入荷が不安定となる状況もみられた。気温が低く推移した地域では、飲料やめんつゆなど涼味商材、熱中症対策商品の動きが悪かった。アルコール類は店舗により好不調が大きく分かれた。豪雨災害の影響で、商品の入荷に支障がでた地域があった。

7. 非食品DI：17.1（好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	4.0	10.4	16.2	34.1	35.3	21.5
非食品（当月）	2.1	14.7	25.9	27.3	30.1	17.1



マスクやハンドソープ、除菌用アルコール商品などが引き続き好調に推移した。調理機会の増加により、ラップや保存パックなどの調理補助品、お菓子づくり用品も好調に推移した。また、在宅時間が増えた影響で、紙類や台所、住居用洗剤の売上も好調となった。レジ袋有料化によりゴミ袋が好調となった。梅雨明けが遅れたことで日焼け止めや制汗剤など夏物商材は動きが悪かった。

カテゴリ別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2020年8月調査（7月実績）キーワードTOP3

1. 家庭内消費需要増大
2. 長雨や豪雨、冷夏による夏物不振
3. 客単価の上昇

（参考）2019年8月調査（7月実績）キーワードTOP3

1. 梅雨時期のズレ、長梅雨（夏物・涼味の不調、販促のズレ）
2. 日曜日が一日少ない
3. 来客数減

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

7月実績速報版 186社
 6月実績確報版 156社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp